

## 地域おこし協力隊通信 (No. 13) 種子島の波乗り

私が初めて種子島の地を訪ねたのは十数年前、当時、大阪でのテレビ番組のロケ地として選んだのがきっかけです。当時、ディレクターとしての職権を乱用してロケ地には離島を選定していました。サーフィンのできる南の離島への移住の夢をかすかに持っていたため、仕事に格好つけて移住場所の下見も兼ねていたのです。

沖縄、宮古島、奄美大島、屋久島など手当たり次第でした。そんな中、種子島にお邪魔して私の離島探索は終了しました。ここだと確信したからです。

ロケットの丘から見た発射場と海の景色には言葉が出ませんでした。仕事柄、日本全国回っていました。風景からこんな衝撃を受けたことはなかったのです。緑の豊かな半島から巨大なロケット格納庫と鉄塔が突きだし、その足もとには半月型の白いビーチが輝いている。そこに満たされたコバルトブルーの海。何と言っても波のラインナップが絶えることなく注がれ、白い軌跡が幾重にも続いています。

あれから十数年経ち今、種子島にいます。あの景色は今でもそのままです。ただ、大型発射

場前の海には入れないことを後で知りました。

種子島は海に囲まれています。「サーフアイランド種子島」として当然アピールができる資源があります。長さ58キロメートルの島には十数か所のサーフポイントがあると種子島観光協会のマップに表記されています。なるほど自分の拠点をどこに持とうが、すぐにポイントに行けるのです。

9月にはプロのサーフィン大会が初めて種子島で開かれたので、種子島の印象をプロの方々にかがうと、「島のすぐどこかに波がある」「海がキレイ」「食べ物美味しい」「島の人々がやさしい」という回答。

そんな中、私事ですが移住から5か月が経ち、ようやくサーフボードを手に入れました。プロの大会を見て、居ても立っても居られなくなったからです。先日、こっそり大会の行われた竹崎海岸にお邪魔して4年ぶりにロングボードで浮かびました。2時間半パドルしまくって、1本も乗れず、もう止めようかなとうなだれた還暦前のおっさんの足下には、あの輝く白砂が波でにじんできました。

(山村)

## 凛とした打ち姿

### 羽生ナミさん 100歳ゲートボール始打式

美座集落のゲートボール大会が9月23日に行われ、今年百歳を迎えた羽生ナミさんが始打式を務めました。ゲートボールが大好きな羽生さんは、この日をとっても心待ちにしていました。毎日の散歩の賜物か、ボールを打つその姿は非常に凛々しく、見事1打目でゲートを通過させました。嬉しそうな羽生さんと、集落の人々の笑顔に包まれ、大会は終始和やかな雰囲気で行われました。



満面の笑みを浮かべる羽生さん

## 農作業中の事故を防ぐ

### 農作業事故防止現地研修会



研修会の様子

農作業事故防止に向けて意識啓発を図ることを目的に、9月21日、農作業事故防止現地研修会が種子島農業公社で行われ、各組合や農家などから56人が参加しました。

研修会では、農作業事故やハカマ焼きによる火災などにについての講演が行われ、参加者らが熱心に受講していました。

なお、県内では8月末までに、農作業中の死亡事故が10件発生しています。